

「ふるさと春日井学」研究フォーラム

Forum for Furusato Kasugai Studies

「ふるさと春日井」地域活性化・まちづくりへの応援

メッセージ

会報

号 外

2026.9.19発行

編集責任：河地 清

Kawachi-k@mb.ccnw.ne.jp

第102回（号外）「ふるさと春日井学」研究フォーラム

「郷土館の歴史講座」

下街道と鳥居松－郷土館の果たした歴史的役割－

令和8年3月28日（土）鳥居松町割公民館に於いて春日井市教育委員会文化財課主催の「郷土館の歴史講座」が開催されました。

旧飯田重蔵離れ座敷として150年以上存在した歴史建造物が、令和8年度をもって解体されるに伴い実施される事業として行われました。『下街道と鳥居松－郷土館の果たした歴史的役割－』と題して、「ふるさと春日井学」研究フォーラム会長河地 清氏が講演されました。石黒直樹市長、CCネットケーブルテレビ、中日新聞報道関係者含め約50名の市民が聴講されました。

春日井市立郷土館 閉館

下街道の歴史 伝え続けた

名古屋城下と中山道を結ぶ下街道の歴史を伝えてきた「春日井市立郷土館」(同市鳥居松町)が28日、最後の開館日を迎えた。耐震性に問題があり、来年度に解体される。同館隣の町割公民館では、郷土館の歴史を心もとく講座があり、30人が耳を傾けた。

郷土史に詳しい「ふるさと春日井学」研究フォーラムの河地清会長(83)が、江戸時代末期に建てられた郷土館の背景を解説した。「郷土館は下街道のシンボルで、地元にとっては寂しい限り。解体した後でも、過去と対話ができるような残し方をしてほしい」と訴えた。(横田佑紀乃)

最後の開館日となった郷土館を見学する来場者。郷土館の歴史を解説する河地さん(いすれも春日井市鳥居松町)で

郷土史に詳しい「ふるさと春日井学」研究フォーラムの河地清会長(83)が、江戸時代末期に建てられた郷土館の背景を解説した。「郷土館は下街道のシンボルで、地元にとっては寂しい限り。解体した後でも、過去と対話ができるような残し方をほしい」と訴えた。(横田佑紀乃)

下街道で街歩きイベントを開催している「鳥居松街づくり委員会」の市原和久会長(73)も登壇し、下街道に残る史跡などを紹介した。

郷土館は1973年にオープン。市は解体後、来年度末に「下街道歴史ひろば(仮称)」を整備する。郷土館全体を仮想現実(VR)映像にして記録を残すという。

中日新聞 昇

2026年(令和8年)3月29日(日曜日)

《講演要旨》

幕末維新期の（安政 3 年説・慶應元年説）建造物です。この地域の酒造家、地域の指導者であった飯田重蔵の離れ座敷として今日まで、歴史の語り部として地域の歴史的シンボルとして存続し続けてまいりました。「ふるさとフォーラム」ではその歴史的文化的価値を色々な視点から市民に発表して参りました。

第 2 回テーマ①「下街道の歴史」②「歴史ある街道と鳥居松商店街の活性化」第 15 回テーマ「春日井市立郷土館と鳥居松の歴史」第 19 回テーマ「ふるさと春日井と俳人横井也有」「見性寺拓本体験」第 52 回テーマ「日本武尊を追いかける一白鳥伝説」第 62 回テーマ『まちづくりと歴史遺産の継承～飯田重蔵別邸と下街道～』（2018.8.11）第 64 回テーマ「ふるさと春日井の危機を救った人々～福澤諭吉と林 金兵衛～」第 85 回テーマ「愛知県政 150 年～第一回通常県会と林 金兵衛～」第 91 回テーマ①「どうする地域活性化のシンボル「郷土館」の行方」②下街道と横井也有「内津草」を中心に「かすがい市民活動情報サイト（URL）：<http://kasugai.genki365.net/>」のサイトで公開されています。

フォーラム第 2 回平成 25 年（2013 年）に於いて「郷土館」の保存、維持について問題提起がなされました。

『一つ目は、春日井市古文書研究会会長 近藤 雅英 氏が『鳥居松の歴史』と題して、地名の由来を中心にして、鳥居松の歴史について発表がありました。二つ目は、春日井郷土史研究会会長・春日井市文化財友の会会長・春日井市文化財保護審議委員である、村中 治彦 氏が『下街道の文化を伝える郷土館』と題して、郷土館の誕生から今日までの歴史と、歴史遺産である「郷土館」の今後について問題提起がありました。』（『会報 第 2 号』引用）



発表者：近藤 雅英 氏



発表者：(故)村中 治彦 氏



「飯田重蔵翁碑」拓本

「下街道由緒碑」拓本

春日井市立「郷土館」と下街道は、地域活性化のシンボル！

現在鳥居松町に所在する「春日井市立郷土館」は、耐震基準を満たさないと理由で閉館されていました。この建築物は、幕末頃に建てられた、この地の地主で酒造家飯田重蔵家の別邸でした。歴史建造物です。この建物は、下街道という歴史街道に位置しているのでこの地域の人たちに近代の歴史を色々と伝えてきています。庶民街道としての宿場町でもあったので、多くの文人、墨客も往来しました。俳人横井也有もそのひとりでした。明治維新には国家的事業近代税制改革（地租改正）の進行をめぐって地域の人々は生活の危機を賭けて慌ただしく往来していました。この地の村落指導者林金兵衛と福澤諭吉との運命的な出会い。そして、官との対峙に苦悩する林金兵衛、飯田重蔵等が活動の拠点とした場所であり街道でした。明治という新時代の国づくりは、明治天皇の全国巡幸で一步一步前に進んでいました。明治天皇は中山道からこの下街道へ、そして、飯田重蔵別邸（現郷土館）に休息をされました。等々、多くの文人墨客の行き交う庶民の歴史ある街道でした。

こうした歴史は、地域の共通の財産であり、歴史資産です。「歴史を大切にするものに未来があり、疎かにするものに未来はない」の教訓のごとく、保護・保存すべきはし、伝えるべきは伝えて行くことを怠る地域に活性化も未来もないことを考えたとき維持保存されて行くべきは現代に生きる者の責任ではないかと考えます。

今、諸々の事情で死に体となってしまっている、歴史ある「郷土館」、下街道のシンボル「郷土館」を保護保存をしないで、地域の特色も活性化もないと考えます。市民も、行政も地域も将来を見据えて考える時、次代の人々の為に決断するときが来たと言えます。

「ふるさと春日井学」研究フォーラムを通じて行政当局には様々な形で訴え、要請をしてまいりました。地域の方々の多くは維持・存続を希望されておられました。（3回の行政当局のヒアリング）地域の方々の要望の趣旨は、

『新しい時代に則した施設づくり、地域創りの拠点となるような存続を期待したい。地域の理解と、地域創りへの意欲が今こそ問われていると思います。地域の活性化の必要条

件は、歴史性、文化性、精神性であることを考えた時、特色ある文化の臭いがする地域の新しいコミュニティーの場として、新しい郷土館づくりで地域再生を計ってもらいたい。』

というものでした。しかし、結果は、「解体」の結論に至りました。

この件に関しては、多くの疑問点、問題点を残して今後課題を残す結果となりました。。このことの正解、不正解は、後生の人たちによって「歴史が裁く」ことになると思っています。

歴史的意義について - 「しおり」に掲げた目標は達成されなかった -

「郷土館」解説

本館は春日井市制三十周年を記念して開館したものであります。本市においては、かねてより文化財の保護につとめてまいりました。すでに春日井市史も刊行され、市民の皆さんに郷土の歴史と文化財の愛護についてあらゆる機会に呼びかけて来ましたが、ここに由緒ある旧施設を補修して郷土館を設置し、郷土文化の伝統と創造に資することに致しました。近年郷土館は各地に建設され、一般庶民の生活文化の歴史を一目理解するためにも民族・民具の収集と展示がなされる傾向にありますが、当市においては、市民意識を背景に、市民のために、市民の手によって、この郷土館が、さらに充実してゆくことを願っています。

一、本館建物の沿革

この建物は、江戸期末期安政三年の建造で、当地の酒造家飯田重蔵氏の離れ座敷であります。したがって民家としても当時の遺構を伝えております。明治十三年六月三十日、明治天皇が民情御視察のため東京より中仙道を経て京都にご巡幸の途次、下街道における御小休所となった建物であります。その後建物の一部に変更がございましたが、おおむね原型を保持しております。建物および敷地の所有者も変遷がありましたが昭和十三年十二月二十七日、時の篠木村長藤田三郎氏が遺跡保存のため所有者、大垣共立銀行より買収して村の管理下におき、ついで史跡として文部省の指定を受けたものであります。昭和十八年春日井市制施行に伴い、市に移管して今日に至りました。

郷土館の在り方について

資料の収集と展示の方法等について、つねに新しい角度から検討さるべきで、ただ古物を並べるといったものではないと考えます。市民の生活と直結した血の通ったもので、郷土文化の伝統を知ると共に、新しい市民文化の創造に役立つものであって欲しいと思います。

本館は、まだ緒についたばかりでありますので、その整備充実と活用は、今後幾多の課題をもってあります。本館は、その立地条件の上からも、明治、大正期を中心にしかも下街道文化の紹介につとめ、さらに市内の民族資料、埋蔵文化財、古記録、古文書の収集につとめ一般市民の皆さまに親しんでいただける郷土館に致したいと存じますので、今後とも市民各位の深い御理解とご協力をお願いする次第であります。(昭和四十八年六月十五日) 春

日井市立「郷土館」のしおり）より抜粋



「郷土館」前に植樹された「松」



現在の「郷土館」全景



「松」植樹祝賀会で挨拶する「ふるさと春日井学」研究フォーラム会長 河地 清氏
報道記事（「中日新聞」2014. 4. 15）

平成 25 年下街道沿線 5 市（恵那、瑞浪、土岐、多治見、春日井）の民間団体でした街道サ
ミットが結成され、互いに連携して下街道の活性化に取り組まれました。「鳥居松」の由来に
因み、この「松の樹」が植樹されました。 4/13（日）植樹祝賀会が開催されました。

今日までの「郷土館」を巡る維持・存続の営みを無にしない歴史の残し方とは

現在行政は、『下街道の歴史は、しっかりと残して行く』（令和 6 年 5 月 24 日「市長対談」）との
発言があり、「郷土館」解体後の敷地をどのようにして歴史を残せるスペースにするかの検
討は始められています。（文化財課、地域の代表者による検討委員会）

現在（令和 8 年 8 月）郷土館は解体され更地になっています。「歴史は過去との対話であ
る」（E. Hカー）との教訓は、守られませんでした。歴史的存在物がなくなった今、今後、
過去との対話は、残念ながら今までのようには出来ません。新しい方法で歴史を残すこと
を考えなければ成りません。後世に史実を正しく伝承してゆくために。

（文責：河地 清）

OPINION

—「郷土館」解体に思う—

『「Heritage」について考える』—文化・歴史的価値とは—

文化財の保護、継承について考えてみたい。市民意識は、文化財の保護、継承の関数であると言われています。1950年「文化財保護法」が制定されました。1968年には文化庁が設置され今日まで多くの文化財が保護の対象になってきました。有形、無形、民族文化財は、我が国の長い歴史の中で生まれ育まれ、今日まで守り伝えられて来ました。貴重な国民的財産です。今日では、地域の資産（共有財産）とは地域にある歴史資産（Heritage）を現代の資産（Property）にするという発想が必要であると考えられるようになってきています。

地域の歴史、地域の文化的特色は、そこにしかない Only One の財産＝資産であることを活用してゆくことが新しい「まちづくり」の発想であることも定説となってきています。

Heriperty(heritage と property の合成語)は、東大名誉教授月尾嘉男氏が唱えています。

「富岡製糸場」が世界産業遺産に登録されるというニュースは、大変うれしい出来事です。「歴史遺産」を保護し保存するという営みは、後世に生きる者の当然の努めでもあります。とは言っても、地域によっては、現実には、「何だかんだ」と理由がついて大切な「歴史遺産」の多くは、風化、劣化、破壊、消滅という運命を辿るものが後を絶ちません。理由の中には、万止むおえないものもありますが、「何とかならなかったのか」というものも多くあります。千年、500年、存在し続けてきても、消滅してしまえば、二度と元へはもどらないというのが歴史です。「知りて過ちを犯す」(P.F ドラッカー) ことを極力なくしていかなければ、人類の遺産は残って行きません。「下街道」という歴史ある景観の中に必死に老体を支えて建っている、「春日井市立郷土館」も消滅してほしくない歴史建造物の一つでした。昨今は、経済的効率（費用対効課）駆っては文化財指定にもなったこともある建造物といえども個別の価値が基準を満たさないというだけの、狭い発想でどんどん地域の歴史遺産は消滅しています。長い間地域の人々に愛され、親しまれ、愛着をもって見守られてきた存在にこそ、大きな価値を見い出さなければならないという意識が大切であるにもかかわらず。瀟洒な箱物を一つ造る前に、立ち止まって考える余裕が今は大切である。「消滅してしまったら元には戻らないのが歴史である」「まちづくり」は、知恵を出して、地域の自然、歴史、文化を守る活動でもあるのです。孫の代に「先人達は愚かな決定をしたものだ」と言われたいために。

（文責：河地 清）

かすがい市民活動情報サイト：<http://kasugai.genki365.net/>

ふるさと春日井学

検 索